

核物理研究センター 研究計画検討専門委員会議事録

日時：2002年7月26日（金）11:00 - 17:30

場所：大阪大学 核物理研究センター（RCNP）

出席：秋宗（甲南大）、下浦（東大 CNS）、宮武（KEK）、
坂口（京大）、清水（九大）、工藤（新潟大）、
八尋（琉球大）、増田（名大）、堀川（名大）、
能町（阪大）、若狭（RCNP）、二宮（RCNP）、
高久（RCNP）、酒見（RCNP）（以上、委員）
藤原（RCNP）、板橋（RCNP）（以上、委員長出席依頼者）

RCNP センター長：土岐（RCNP）

RCNP 研究企画室：畑中（RCNP）

欠席：相良（九大）、浅川（京大）、國廣（京大）

[1] 研究会「核力と核物理」

=====

研究会「核力と核物理」において、RCNP の加速器と高分解能実験の現状、
および理論の新しい展開に関連した下記の三つの講演が行われた。

1. 二宮氏（RCNP） 「磁石温度の安定化によるサイクロトロンの高性能化」
2. 藤田氏（阪大） 「分散マッチング法とガモフテラースペクトル」
3. 土岐氏（RCNP） 「超微細構造と新しい核構造の可能性」

[2] 前回議事録確認 （八尋氏）

=====

平成14年3月1日開催の研計委の議事録（案）を承認した。

[3] 報告事項

=====

1. 概算要求に関して。（土岐センター長）

リングサイクロトロン of ビーム強度増強及び安定化を目的とした
入射加速器更新を中心として概算要求を行った旨、報告があった。

2. 2002年度予算配分に関して。（土岐センター長）

各予算項目に関して予算配分の報告がなされた。
前年度に比べて10%程度の予算の削減があった。

[4] 協議事項

=====

1. E122 (pn → pΛ 実験) Review (能町氏、藤原氏)

E122 Review の結果が報告された。
実験現状の説明の後、今後の方針に関して Reviewer からの提言があり、
議論の上、下記の点が了承された。

- 1) 次のマイルストーンを来年夏頃に設定する。実験の Feasibility 確認を
目標とする。
- 2) Feasibility 確認のためには、CDC の読み出し (Front End Card)
を全チャンネルそろえることが望ましい。
- 3) 実験課題 E122 としては、Proposal の目標 : Feasibility 確認の達成をもって
終了となる。本実験を計画する際は、新規実験課題として申請される
ことになる。

なお、今年度必要な予算に関しては、下記で議論された「一般実験費の配分方法」に
基づき、次回の B-PAC (8月19日開催) で予算配分が決定される。

2. 一般実験費配分方法および配分案 (秋宗氏、板橋氏)

- 1) 一般実験費 (リングサイクロトロン関係の共同利用実験費) の配分方法が
提案され、下記の手続きで配分案を決定することが了承された。
 - [1] B-PAC において、各実験課題に必要な費用を検討の上、配分案を決定。
P-PAC でこの配分案を審議、確認する。
 - [2] 修理等、Proposal 中の申請品目以外に対処すべき物品が必要になった場合は、
予算執行責任者および研計委幹事で判断する。高額の場合は、研究企画室
長、研計委委員長を含めて議論し、必要な場合は研計委の中で判断する。
なお、実験を申請するにあたって、科研費やその他の外部資金の申請等、

実験費獲得の協力を強くお願いすることを確認した。

- 2) 2002 年度前半期の予算配分案が提案され、減額調整された内容を確認の上、これを承認した。
また、予算を検討する上で Review の報告が必要であった E122 に関しては、次回 B-PAC (8 月 19 日開催) で早急に配分額を決定する。

3. 中期目標、中期計画。(土岐センター長、畑中氏)

「大阪大学の中期目標、中期計画(案)」のワークシート作成について説明があった。ワークシートは現在作成中であり、中期計画に関して継続して検討を続ける。

なお、ワークシートの提出期限は 8 月 30 日(金)となっている。

4. RCNP の運営に関して。(土岐センター長)

- 1) RCNP の研究体制を、「加速器系」「実験系」「理論系」の三つの部門に再編する旨、報告がなされた。
- 2) 独立法人化後の大学附置の「研究所」と「センター」において、予想される予算獲得面等での違いに関して説明がなされた。
本センターとしては、今後、どのように法人化後の体制を組織して行くかが重要な課題であるとの報告があった。

加速器のような大型設備を運転、維持する予算を獲得するために、研究分野が近い学内のセンターや研究所と合併し、研究所設置の基準「全国共同利用」「国際研究拠点」「規模」を満たす研究所になることがセンター長の方針として提案され、その案に関して議論を行った。

研計委としては、どのような組織形態の下でも、これまで通りの共同利用体制を維持することをセンターに対して最大限要望することを確認した。

5. 教育用マシンタイムについて。(畑中氏)

教育用ビームタイム募集に関して、その内容、目的について説明が行われ、実験課題募集を承認した。

なお、申請のフォーマット等に関しては、通常の実験課題申請と同等かもしくは簡略化したものでよいが、後日改めて連絡する予定。

6. 次回研計委日程と議題について。

今回は 11 月 15 日（金）あるいは 11 月 29 日（金）10 時から核物理研究センター本館 2 階会議室にて行う。